



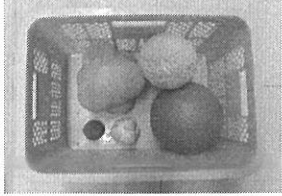


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【村田町】

1 実践テーマ	【I・III・V】
2 実施対象者	村田町立村田小学校 全学年 368名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道徳・総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	車椅子バスケットの強豪チーム「宮城マックス」の選手による車椅子バスケットボールの体験活動や、元監督の講演を通して、パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを通して助け合うことや努力することの大切さを学ぶ。
5 取組内容	<p>(1) 講話「車椅子バスケットボールから学ぼう」</p> <p>◆講師：全日本女子車椅子バスケットボールヘッドコーチ (元宮城マックス監督) 岩佐 義明 氏</p> <p>◆参加対象：全児童参加</p> <p>全日本選手権で9連覇を達成するまでの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障害を乗り越えていくための努力について、日本代表の現役選手の豊島選手や萩野選手のコメントや実演を交えながら、教えていただいた。</p>  <p>(2) 体験「車椅子バスケットボール体験」</p> <p>◆講師：宮城マックス 豊島 英 選手 宮城マックス 萩野 真世 選手</p> <p>◆参加対象：5学年</p>  <p>5年生児童が、実際に競技用の車椅子に乗り、シュートの練習や選手とのミニゲームを体験した。特に、選手とのゲームでは、その迫力と大変さ、そしておもしろさを実感することができた。ゴールが決まると、歓声ができ、大いに盛り上がった。</p>

	<p>(3) その他</p> <p>本校では、体力向上や友達の交流の場として、休み時間に外遊びを奨励している。そこで、遊びを通して、オリンピック選手のような巧みな動きが習得できるよう、室内用と屋外用の多種多様なボールを購入し、設置した。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○車椅子バスケットボール体験を通して、競技の難しさを実感するとともに、障害がありながらも車椅子を巧みに操作する選手のすごさを目の当たりにし、障害に対する見方や考え方が変わった。</p> <p>○選手の巧みな動きを見る一方で、自力で起きられない状況を意図的に見せていただいたことで、選手の苦労や努力を実感し、パラリンピック競技への理解が高まった。</p> <p>○5年生児童は、宮城のマックスの選手から、たくさんのことを教えていただく中で、感謝の気持ちや選手をこれからも応援したいという思いを持つことができた。</p> <p>○5学年の総合的な学習の時間において、「キャップハンディ体験」や「老人ホーム訪問」を実施している。宮城マックスの選手との交流での学びを生かし、障害者の気持ちを推し量りながら、どのような対応したらよいかを考えながら活動する様子が見られた。</p>   <p>【老人ホーム訪問】 【キャップハンディ体験】</p> <p>○校庭や体育館でボールを使った遊びをする児童が増えた。特に、低学年の児童は、小さなボールを使ってキャッチボールをしたり、不規則にバウンドするボールを追いかけたりする姿が多く見られた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○車椅子バスケットボールを、実際に体験できる場面、見せる場面を多く設定し、ハンディキャップを持った人の大変さを実感させるようにした。</p> <p>○岩佐氏の講話において、9連覇を達成する大変さを話される中で、「選手とのコミュニケーション」「互いに協力すること」を大切に指導してきたことに触れていただいた。大きな目標を達成するためには、友達と助け合い、努力し続けることが大切であることを強く実感させることができた。</p> <p>○本校のPTA 専門部会の研修会としても位置付けて実施し、多くの保護者の方にも参加いただいた。保護者の方々に対しても、障害者スポーツの理解を促す場となった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○来年度も同様に招へいしたいが、2020東京大会に向けて、県内外の体験会の依頼が増加しているとうかがった。また、監督や選手が日本代表として海外遠征しなければならない状況にあり、日程調整が難しい。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>○5学年では総合的な学習の時間において、「福祉」をテーマに探究的な学習を位置付けている。パラリンピック競技と関連付けることで、学習意欲や探究心が高まることから、次年度も実施したい。</p>